

THE WALL STREET JOURNAL.

2013.03.06

核兵器のリスクを削減するための次のステップ 今日の核不拡散への取り組みは、切迫する脅威に対応していない。

筆者: ジョージ P. シュルツ、ウィリアム J. ペリー、ヘンリー A. キッシンジャー、サム・ナン

第2次世界大戦以降、すべての米国大統領が核兵器に関連した独自のセキュリティリスクおよび問題に真剣に取り組んできました。核戦争、核事故、核拡散または核テロの恐怖は、核の危険性を制御、軽減および除去するための懸命かつ継続的な取り組みをもたらしました。過去数十年にわたって、核兵器を削減し、核拡散防止に関する国際協定を制定するための進歩が遂げられています。

最近、我々4人は以下の2つの重要な政策イニシアチブを支持しました: 二国間の核保有量を検証可能な形で削減するためのロシアと米国との間における2010年第四次戦略兵器削減条約(新START)、そして核兵器および核物質の安全を確保するための活動的な世界的取り組みである2010年および2012年の核セキュリティ・サミット。どちらのイニシアチブも重要で希望に満ちた手段であり、何十年にもわたる超党派による成果を一層高めるものです。中でも注目すべきは、現在の世界における核兵器保有量は、1986年にレーガンとゴルバチョフの間で行われたレイキャビク・サミット当時の核兵器合計保有量の3分の1にも満たないということです。

これらの相当な努力にもかかわらず、核の危険は依然として、あまりにも現実的です。核兵器の技術的進歩とさらなる国への拡散は、危険な自己満足によって悪化しています。米国とロシアという2つの世界最大の核保有国の間における両国関係には亀裂が入っており、北朝鮮による核実験の爆発によって先日中断された、北朝鮮とイランによる新たな核脅威を効果的に対処にすることに関しては、次々と新たな困難に見舞われています。自爆テロリスト集団の危険、増え続ける核兵器保有国、そして様々な動機、目的および野心が相まって、非常に予測不能で高い危険がもたらされています。

今日の世界が「相互確証破壊」、すなわち敵に耐え難い被害を加える脅威によって、米ソ冷戦期の核抑止をうまく再現させることができるか、全く確信できません。それは本質的には二極世界に基づいていました。しかし、核兵器によって増加する多数の敵が複数の予測される脅威に直面した場合、冷戦期の相互核抑止を維持するのは難しくなります。抑止力が衰え、核兵器が使用される危険は劇的に増加します。

世界的なリーダーは、これらの危険を軽減し、最終的には除去する責任を一般市民に対して負っています。冷戦中にも、2つの超大国のリーダーは、核戦争の危険を軽減させることに努めました。宣戦布告した敵国間において可能であったことは、一部の国で核保有量が増加し、複数の核軍事力が存在し、また核エネルギーの拡散が増加する世界において不可欠です。核兵器への依存を減らし、核兵器の拡大を防止し、最終的に、世界に対する脅威としての核兵器を無くすためには、世界的な取り組みが必要です。そのためにはリーダーシップの発揮、創造的なアプローチ、そして何もしないことの危険性に対する十分な理解が必要です。短期的な結果は、世界的なセキュリティ政策を中期的および長期的に変容させる基礎を構築します。緊急に考慮すべき必要がある分野は4つあります。

1. 壊滅的な核テロを防止するために核物質を安全に保つこと。現在、核爆弾を製造するために必要な物質は、10年前の40カ国から減少し、28カ国における数百軒の施設に保管されています。しかし、これら施設の多くは十分な安全が確保されておらず、そのため物質は盗難や、闇市場への販売といった被害を受けやすい状況にあります。2010年と2012年の核セキュリティ・サミットでは、核物質を安全に保ち、連携を強化するための重大なコミットメントが行なわれました。これらのコミットメントは今後の世代のセキュリティを高めることができます。しかしながら、すべての兵器利用可能物質を追跡、管理および保障し、その責任を担うためのグローバルシステムはまだ整っていません。

2014年にオランダで開催予定の次回の核セキュリティ・サミットで、世界各国のリーダーたちは国際保証手続きを含む、包括的かつグローバルな核物質安全保障システムを開発することを確約として、すべての兵器利用可能物質が権限のない者によるアクセスや盗難から保護されるようにすべきです。

2. 2つの世界最大の核保有国がリーダーの決定時間を増加する際の展開パターンにおける変化。2008年の遊説で、当時上院議員であったバラク・オバマは次のように述べました。「核兵器を即座に発射できるように準備しておくことは、冷戦の物騒な名残である。このような方針は、壊滅的な事態、もしくは誤算を招く危険を増大させている。私は、ロシアとの相互の協力関係の中で、検証可能な方法で、この時代遅れの冷戦の遺物を終わらせようと思う。」現在、弾道ミサイルは数分で発射できるように核を武装して配備されているものの、米国は世界中の核武装国と協力して、すべての核兵器を即座に発射できる状態から取り除く努力をするべきです。このイニシアチブを活性化させるため、米国とロシアは、ロナルド・レーガンの「信頼するが検証もする」と言う格言を思い出しながら、両国の一定の割合の核弾頭を即座に発射できる状態から取り除くことに合意する必要があります。

3. 新STARTに伴う行動。戦略的領域における進歩は相当なものです。ワシントンでは、弾頭と発射機に関して、協調的な相互作用の可能性を含め、新START水準以下を実現するよう、慎重に検討する必要があります。そのためには以下のことが必要条件となります。a) 厳しい相互関係、b) 明らかな検証、c) 核兵器の備蓄量に関して高い信頼性を維持するために必要な長期投資のための十分な安定した資金を提供すること。

新 START の下で規定されていない、米国とロシアの戦術的な核兵器を統合および削減することも、最優先する必要があります。他の一部の核武装国が備蓄量を増加させていることから、あるいは新しい核保有国が出現したら、米国とロシアの核削減は固有の限界に直面するということを認識する必要があります。北朝鮮とイランの核プログラムは核拡散防止条約を弱体化させ、地域および世界の安定に直接脅威を与えます。これらの二カ国を国際基準に準拠させない限り、両国の継続的な核プログラムによって非拡散に対する支持とさらなる核兵器の削減は損なわれます。

4. 検証と透明性をなしに、核セキュリティ協定を、自信を持って履行することはできません。米国は国内の核兵器研究所と世界中の科学専門家による「検証イニシアチブ」を実施し、核兵器と核物質を削減および制御するために必要な技術と革新の開発に努めるべきです。透明性向上の原理は、その能力を危険にさらさない限り、ミサイル防衛にも応用できます。さらなる透明性を促進するために主導権を握ることで、すべての国にとっての重要な基準を設定し、核物質と核兵器の将来の検証を促進することができます。

緊急手段に焦点を当てたこの戦略は、短期的にセキュリティを向上させるために対策を取るリーダーにさらなる自信を与えます。そして、議会による支援への見通しを上昇させます。連邦議会との緊密な協議も重要です。

さらに、新たな対話も必要です。上記の内容について取り上げた 2007 年 1 月の論説で、我々は核兵器のない世界をもたらすという目標に対する現実的なステップを特定しました。これらのステップは、現在核兵器を保有している国のみならず、多くの国に影響を与えます。進歩するためには、さらなる国際協力が必要です。米国は他の主要国と協力して、短期的成果を達成するために共通の目的を持った共同事業を設立しなければなりません。世界最大の核保有量を誇るロシアと米国は、これに関して特別な責任があります。

- **有志連合。**核セキュリティ・サミットは、共同事業を設立するために力を合わせるリーダーに、特定のステップに従って優先事項を設けながら進歩を実現する有志連合を生み出すためのモデルを提供することができます。重要な主題は、多くの国が利益を享受でき、また多くの国が貢献しなければならないことに特定されなければなりません。政府首脳間の会議スケジュールは、外相、国防相およびその他の者が政府首脳会議間において協力することができる、かかわりを持つための外交体制を構築する上で役に立ちます。

- **地域対話。**かかる共同事業は地域対話を通して強化されるべきです。政治、防衛および軍事部門のトップリーダーは、相手とともに重要なセキュリティ問題に対する様々な現実的なステップを追求しなければなりません。ヨーロッパ、ロシアおよび米国で構成され、そのうち核保有国が 4 カ国あり、世界中の核兵器の 90% 以上を保有している欧州大西洋地域は、中心的役割を果たす必要があります。中国とその他の主要国は、多国間問題と自国内における問題の両方に取り組む必要があります。

核兵器による継続的な危険は、依然として重要な戦略的問題でありながら、現在のそれに対する取り組みのペースは脅威の緊急性に適合していません。何もしないままでは大惨事が発生

する可能性があります。そのため、我々は次のことを問い続ける必要があります。核攻撃による混乱と苦悩に市民はどのように反応するか？このような惨事を防ぐために何を行なうべきであったのか、市民が教えてほしいと求めてくることはないか？我々の時代は神から火を奪い取りました。このすさまじい力が我々を吸収する前に、平和目的で我々がこの力を封じ込めることはできるだろうか？

ジョージ・シュルツは1982～89年まで米国国務長官を務めました。ウィリアム・ペリーは1994～97年まで米国国防長官を務めました。ヘンリー・キッシンジャーは1973～77年まで米国国務長官を務めました。サム・ナンは米国上院軍事委員会の元委員長で、現在は *Nuclear Threat Initiative* (核脅威イニシアティブ) の最高経営責任者を務めています。全員、スタンフォード大学フーバー研究所の特別教授または特別客員教授を務めています。